

第 13 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 30 年 6 月 27 日(水) 13:30～16:00	
開催場所	薩摩川内市役所 501 会議室	
出席者	委員	外薗会長、仙波副会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員、白男川委員
	事務局	行政改革推進課長、同課職員
	傍聴者	なし

□会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 補助金等評価	
(1) 全国離島交流中学生野球大会参加補助金	甌はひとつ推進室
(2) 地域おこし協力隊員起業支援補助金	地域政策課
(3) 自治会再編推進協議会補助金	地域政策課
(4) 自治公民館等設置事業補助金	地域政策課
(5) ゴールド集落重点支援地区補助金	地域政策課
(6) ゴールド集落自主活動支援補助金	地域政策課
(7) ゴールド集落支援地区コミュニティ協議会活動補助金	地域政策課
(8) ゴールド集落支援市民活動補助金	地域政策課
3 閉会	

□議事

1 開会

○会長

(挨拶)

2 補助金等評価

(1) 全国離島交流中学生野球大会参加補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 負担金はどこへ納付しているのか。

●主管課 実行委員会へ納付している。参加料、宿泊費等の経費すべて含まれており、金額は 200 万円である。

○委員 甌島のチームは寄せ集めのチーム

で、その効果に疑問がある。野球に限らず、他のスポーツ交流はないのか。

●主管課 このような規模で他のスポーツ交流事業はない。この全国離島交流中学生野球大会（通称：離島甲子園）を甌島でも開催したいところであるが、野球場と宿泊所がない。

○委員 離島の中学生の野球チームは何チームあるのか。

●主管課 離島に何チームあるかは不明である。昨年の大会には 24 チームが参加し

た。大会終了後、参加した生徒及び保護者からアンケートを取り、集計している。

○**会長** 子供たちの声が知りたい。本委員会へのアンケート提供をお願いしたい。

●**主管課** 分かりました。

○**委員** 資料を見ると、昨年は16名が参加しているようである。主旨はとても良いことであると理解した。しかしながら、継続性という面で疑問がある。

●**主管課** 委員ご指摘のとおり、市の事業として実施していた平成26・27年度は希望する生徒がいなかったことから、参加しなかった。島民主体の実行委員会を立ち上げるなど、保護者の強い要望で現在に至っている。

○**委員** なぜ野球なのか。甕島の中学校に一つでも野球部はあるのか。

●**主管課** 甕島の中学校には野球部はない。この事業の目的はスポーツ交流である。

○**委員** 今後の見通しはどうか。

●**主管課** 昨年は寄付をたくさんいただき、その中から道具一式を揃えた。今後も地域一体となって取り組んでいく予定である。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 継続性が問題であると考え。今後も継続していけるよう取り組むべきである。

○**委員** 確かに市(行政)が協力しなければ、事業が成り立たないと感じた。

○**委員** 元プロ野球選手の村田兆治氏の熱意でできた野球大会。地元では今のところ

指導者を中心に保護者・生徒等でまとまって活動できている状況である。

○**委員** 事業を野球に限定せず、交流のための補助金に変更できないのか。そうすれば、継続は可能ではないか。アンケート、感想文を書かせるなど、とても良い内容であると感じた。

○**会長** アンケートの集計があるとのことなので、今回は資料に添付するよう依頼したい。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(2) 地域おこし協力隊員起業支援補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 任期後に定住しているかなど、その後フォローアップはしているのか。

●**主管課** 起業される際に財産を取得することになる。財産処分の縛り等を考慮し、5年間は定住してもらうことを条件として対応している。

○**委員** きまりはあるのか。

●**主管課** 総務省の要綱等にはない。市独自で取り決めているものである。

○**委員** これまでの実績は。何人に対して支援しているのか。

●**主管課** 平成29年度に1人、平成28年度に1人の合計2人である。

○**委員** 起業後の状況はどのようなか。

●**主管課** 順調であると聞いている。市としては、人口減少が進んでいる中で、市内に定住していただくことが目的の一つであると考えている。

○**委員** 平成30年度予算に2件計上している。起業予定があるのか。

●**主管課** お見込みのとおりである。

○**委員** 確認をしたい点がある。起業しさえすれば、どのような職種でもよいのか。

●**主管課** 個人事業主であれば業種に制限はない。

○**委員** 起業する際に事業計画等を確認していると思うが、審査はどこが行っている

のか。

●**主管課** 審査会は設けていない。市が内部で書類審査を行っている。

○**委員** 100万円の根拠は。

●**主管課** 事業資金の一部と考えている。実際に起業するとなると100万円以上かかるはず。この100万円が動機付けになればとの見解である。

○**会長** 別の課所の創業支援補助金等との併用は可能なのか

●**主管課** 要領での制限はない。

○**委員** 実績2人はどこに、どのような職種で起業・定住しているのか。

●**主管課** 2人とも甕島で起業・定住している。写真撮影、動画制作を行っている方と発酵食品の加工販売、料理教室を行っている方である。

○**委員** 定住できずに出ていく人もいるが、地域にはなくてはならない制度であると考えている。

○**委員** 地域おこし協力隊の任期はどれくらいか。

●**主管課** 任期は1年以上3年未満である。

○**委員** 任期後どうするのが課題で、任期中に定着する方策を行政には考えていただきたい。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性「低い」という評価でよろしいか。また、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 是非継続をお願いしたい事業である。起業支援は必要である。

○**委員** 任期後に定住し、補助金を受けた方

がやむを得ない事情等で転出した場合、財産処分との縛りがないとのことであった。要領等で明確化すべきである。

○**委員** 縛りを強くするのには反対である。地域おこし協力隊として本市に来て起業を志している人に対し、任期中に支援できる仕組みの方が必要ではないか。

●**事務局** 参考までに、本補助制度自体が特別交付税の算定に算入される仕組みとなっており、間接的に国からの財源措置がある事業である。また、補助制度を利用した方は2名だけだが、市内定住率は60%を超えおり、地域おこし協力隊の制度は有効であると考えている。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(3) 自治会再編推進協議会補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** コミュニティ協議会の再編に対して質問したい。小中一貫教育等に伴い、今後、地区コミュニティ協議会の再編の話が出てくる可能性がある。これに対して市はどのように考えているのか。

●**主管課** 話が具体的にない状況なので、市として再編はまだ考えていない。将来的には少子高齢化が進展していく中で、再編の話があるのではと考えている。

○**委員** 地区コミュニティ協議会の再編があった場合には、3万円の補助金では無理がある。

●**主管課** 市としても同じ意見である。万が一、急に再編の話が進んだとしても、支援できるよう対応していく予定である。

○**委員** 平成27年度以前の実績をご教示いただきたい。

●**主管課** 平成26年度3件、平成25年度2件、平成24年度1件、平成23年度2件である。補助金を申請せず、自主的に合併した自治会もある。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「拡大」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(4) 自治公民館等設置事業補助金(書類審査)

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 要望調査とあるが、自治会運営説明会にはすべての自治会代表者が参加するものなのか。

●**事務局** 自治会運営説明会にはすべての自治会長に出席いただいている。また、毎年7～8月に自治会文書便にて次年度要望調査を実施している。

○**委員** 平成30年度の要望件数はいくらか。また、予算要求の状況はどうか。

●**事務局** 件数は21件で、すべて予算措置済である。

○**委員** 前回評価にて「財政状況など現状を把握」との意見があった。対応はされているのか。

●**事務局** 総会資料の提出により現状を把握している。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(5) ゴールド集落重点支援地区補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 補助金交付件数が増加している理由は、高齢化か。

●**主管課** お見込みのとおりである。ここ数年で高齢化が更に進んでいる

○**委員** これからも増えることが予想されるが、どのように考えているのか。

●**主管課** 数年前と比較して倍増している。制度見直しが必要であると考えている。

○**委員** 必要性については、どのように考えているのか。

●**主管課** 地域的ハンディの克服の観点から何らかの支援は必要であると考えている。しかしながら、現在の65歳以上の人口の割合が50%以上である自治会の区域となっている要件を変更しなければ、財政上かなり厳しい状況となっていくことが予想される。

○**委員** 見直しは必要との考え方を理解した。

○**委員** 見直しすることで、地区コミュニティ協議会及び自治会は会費を値上げしないと運営できない状況になる可能性がある。会費収入の減と補助金収入の減に対して、地域は不安を持っている。

●**主管課** 平成22年度に制度化され、補助金ありきで活動されている自治会もある。これらのバランスを考えながら見直しに取り組んでいきたい。

○**会長** 市としてゴールド集落をどのようにしたいと考えているのか。

●**主管課** できることなら再生させ、活気のある地域にしたいと考えている。しかしながら、現状を勘案すると難しい状況である。1年でも長く現状維持できるように支援することが精一杯である。

○**会長** ゴールド集落に対する定住補助をどのようにしたいと考えているのか。

●**主管課** ゴールド集落に対する定住補助金は以前あったが、現在はない。

○**会長** 外から若い人を呼び込むことが大切ではないか。

○**委員** 地域では、補助金があることで今までできなかったことに取り組むことができています。若い人を呼び込むことだけが大切ではないと思う。

●**主管課** 市としてはもっと有効活用してほしいと考えている。

○**委員** 地域も地域の実情に併せて対応すべき。市の財政を考えると無くても良いが、全部無くすのは難しいので、残すための方策を検討してほしい。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「補助内容の改善」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** ゴールド集落関係補助金全体の意見をこの場でまとめたい。

○**委員** 異議なし

○**委員** 外から人を入れることに目をむけるべきではないか。

○**会長** ゴールド集落はいずれなくなっても良いとのことであれば、今のままという立場となるが、今後も人が住んでいけるような地域にしたいならば、定住していく施策を展開すべきである。

○**委員** ゴールド集落から脱却した地域もある。現状を分析することが必要である。

○**委員** 制度見直しは喫緊の課題である。制度見直しの前に、まず、ゴールド集落関係補助金の成果等を検証すべきである。

○**委員** 人を呼び込む施策は別枠で制度を作った方が良いのではないか。それぞれの

地域に合ったものを取り組んだ方が成果は上がると思う。

○**会長** ゴールド集落関係補助金すべて同じ指摘事項として、まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(6) ゴールド集落自主活動支援補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 自主活動支援補助金と市民活動補助金との活動内容の違いは何か。

●**主管課** 自主活動はゴールド集落に居住する自治会が自ら取り組む活動で、市民活動はゴールド集落を外から支援する活動に対して補助するものである。

○**委員** 自主活動について、活動内容を市で指導できないのか。

●**主管課** 活動は自主性に任せている。料理教室による世代間交流、花を植える環境美化など例示はしている。

○**委員** 件数が増加している理由は何か。

●**主管課** 単純にゴールド集落が増加しているからである。

○**委員** ゴールド集落の数はどれくらいあるのか。

●**主管課** 平成30年度は157自治会である。また、非該当となった特例ゴールド集落が14自治会あり、計171自治会が自主活動支援補助金の対象で、うち129自治会が申請している状況である。

○**委員** 補助金の対象であるゴールド集落なのに、全く活動していない自治会もある。有効活用すべきである。

●**主管課** 事業をしたくてもできない自治会もある。市ではゴールド集落支援職員を配置しているので、是非、利用してほしい。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「補助内容の改善」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(7) ゴールド集落支援地区コミュニティ協議会活動補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** ゴールド集落を抱えている地区コミュニティ協議会が受ける補助制度である。例えば、川内地区コミュニティ協議会の活動で言うと、集まるためのバス代等を助成するとはできないのか。

●**主管課** 市としては口出しできないと考えている。川内地区コミュニティ協議会の活動を例にすると3つのゴールド集落があるので、市から5万円×3＝15万円の補助となる。対象地区に対する補助ではなく、ゴールド集落がある協議会に対する補助であるので、コミュニティ協議会次第であると考えている。

○**委員** ゴールド集落がない地区コミュニティ協議会は48協議会のうちどれくらいあるのか。

●**主管課** 高来、手打、長浜の3協議会である。

○**委員** この少子高齢化の中にあって、人口が増えている地域もあると聞いている。他の市町村の例などを参考にして、地域が活性化した事例、仕掛けなど、どういう施策を実施したのかなど、市として検証すべきである。

●**主管課** 検討したい。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「補助内容の改善」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

2 補助金等評価

(8) ゴールド集落支援市民活動補助金(書類審査)

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 成果目標に課題解決とあるが疑問である。生活環境の整備促進の成果指標に対する推移はどうか。

●**事務局** 手の届かない範囲の住環境整備、サロンサポート、見守り活動、世代間交流、スポーツ大会などの開催により、生きがいづくり・活性化につながっていると認識している。また、件数は平成27年度7団体、平成28年度10団体、平成29年度8団体である。

○**委員** 各団体の活動内容が知りたい。

●**事務局** 資料を提供する。各自確認をお願いしたい。

○**委員** 稲作体験事業など素晴らしいと思う。参加者は何名ぐらいか。

●**事務局** 15～20名である。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「補助内容の改善」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

3 閉会

○**事務局**

(挨拶)